

## 居場所づくりの事例

ここでは、都内で子どもの居場所に携わる3人の方のインタビューを通して、それぞれの居場所に集う子どもたちの様子や、その場を支える大人たちの活動を紹介し、居場所が持つ魅力について探ります。

### 渋谷ファンイン

### ～ネットワーク型の居場所づくり～

#### 「イメージをカタチにして広がる渋谷ファンイン」

——相川良子さん【渋谷ファンイン事務局】に聞く

渋谷ファンインは、渋谷区内全域に広がる子どもの「居場所」です。地域で子どもたちにかかわる人々の想いを形にして、ファンインは現在、渋谷区内11か所を拠点に、子どもたちを対象に居場所づくりをしています。ファンインでは、こうした活動を「パートナーシップでつくる柔らかなネットワーク」と言っていますが、そのネットワークを支える事務局の相川良子さんからお話を伺いました。

#### ▼まず、渋谷ファンインの「自己紹介」をお願いします。

渋谷区で、子どもの居場所づくりをしている「渋谷子どもの居場所づくり実行委員会」の愛称を「渋谷ファンイン」と呼んでいます。「ファンイン」というのは、中国語で“歓迎”という意味で、当初は子どもたちの居場所の総称として使っていました。その後、区内全域に活動が広がり、それぞれの地名をつけて「〇〇ファンイン」と呼ぶようになりました。

#### ▼ファンインがはじまるきっかけについてお伺いします。

青少年をめぐる痛ましい事件が起こるたびに、地域に住む大人たちがもっと子どもたちの声に耳を傾けるような場所をつくることはできないかと思っていました。一方では、学校週5日制がはじまり、土曜日が休みとなって、この休日を子どもたちが自分自身を豊かにするために使って欲しいという気持ちもありました。

居場所づくりは、平成10年度渋谷区上原社会教育館の主催講座「中高校生倶楽部」がきっかけでした。翌年、この講座の参加者に地域の有志が加わり、地域で子どもを育てることをめざして「上原ファンイン」が誕生しました。

子どもたちが、のんびりゆったりできる場、群れ遊ぶ場、そのような居場所を地域につくりたい、そうした思いから居場所づくりが始まりました。昔から、放課後は先生や親に指図されずに自由に遊べる至福の時間でした。今の子どもたちもスケジュールは詰まっていますが、学校帰りの寄り道や、部活待ち、塾待ちなど1時間か2時間のすき間はあります。当初は、子どもたちがぶらっと来て自由に過ごすことができる社会教育事業として、上原社会教育館の施設の一部を開放し居場所がスタートしました。その後、地域で居場所を運営する組織（渋谷子どもの居場所づくり実行委員会）をつくり、活動が区内各地に広がっていったわけです。

### ▼ファンインは現在11か所ですが、どのように広がっていったのですか。

平成11年、当時の文部省の「地域活動促進事業」の委託を受け、ファンインは1年で7か所になりました。平成13年度から「子どもゆめ基金」の助成を、また文部科学省の奉仕活動・体験活動支援センター事業の委託も受け、学校・地域・企業・NPOとのコラボレーションが進みました。

学校週5日制（完全実施）となった平成14年からは、土曜日に学校で実施する「ファンイン土曜クラブ」を開設、地域青少年クラブとして区の委託を受け、子どもたちの要望が強い演劇、学習、英語、卓球などを実施しています。

平成16年度からは、文部科学省の地域子ども教室推進事業の委託も受け、ファンインは渋谷区内で11か所の拠点で居場所を展開するようになりました。活動拠点も、社会教育施設、高齢者ケア施設、学校、公園、企業のオフィスなどさまざまです。

さらに、子どもの活動情報誌を発行する「渋谷子どもネット編集委員会」、都の家庭教育支援委託事業を受け不登校、引きこもりに対応する「ファンインピアサポート委員会」、プレーパーク活動を続ける「渋谷の遊びを考える会」、居場所を支える「若者ネットワーク」、渋谷区青少年体験活動支援センターなど、独立したそれぞれの団体が、つながり、メンバーが重なりあいながらネットワークを広げています。

### ▼ファンインの活動を支えているのはどのような人たちですか。

ファンインは、ひとことで言えば、地域の大人が運営し若者が支えているのです。

スタッフは、おおむね40～60代の、元PTAにかかわっていた地域の人たちを中心に、退職後のサラリーマン、NPO関係者、企業の社会貢献関係者、自営業、主婦など、さまざまな人たちがボランティアで参加しています。

10～20代の若者たちは、ユースパートナー、ピアサポーター、サポーターと、それぞれの役割をもって子どもとかかわります。

ユースパートナーは、居場所にやってくる子どもたちの相談相手であり、遊びのサポーターです。

ピアサポーターは、学校や教育委員会と連携しながら、不登校や引きこもりの子どもたちの自宅を訪問したり、お兄さん、お姉さん役をします。

サポーターは、子どもたちの学習活動を支えます。

若者たちが、直接子どもたちとかかわるのに対し、スタッフは、見守り役、マネジメントをする役割を担います。活動の場と人材と資金があれば居場所は運営できると、この6、7年で実感しています。

#### 11か所のファンインの特色を紹介します。

##### ①上原ファンイン

上原社会教育館職員の協力により居場所を毎日開設しています。また、クラブ活動としてソフトバレー、ヒップホップ、土曜には演劇部、質問クラブもやっています。

## ②せせらぎファンイン

冒険遊び場など外遊びが中心。平成16年度、渋谷区公園課、「渋谷の遊び場を考える会」との協働で、プレーパークを運営。毎週土曜日は、居場所や、高齢者施設の喫茶ボランティアの活動もします。

## ③本町ファンイン

児童福祉センターでの居場所、学校を使った料理やダンス等、“体験”を大切に活動。小学生が多く、運営スタッフは平日仕事のある若いママ、パパが中心のため、土曜日の活動が多くなっています。

## ④笹幡ファンイン

毎週土曜日、小中学生と一緒に笹塚中学校の体育館でサポーターとバスケットボールに挑戦。水曜日は幡ヶ谷社会教育館を借りて居場所を開設、小中学生がやってきて自由に遊びます。

## ⑤鳩森ファンイン

毎週火曜日、放課後の居場所では、鳩森小学校でのミニバスケが人気です。土曜日は“自然とお友達に”という「エコキッズ」や英語のクラブがサポーターによって実施されます。「お仕事探検隊」などの体験活動も行っています。

## ⑥代々木ファンイン

小学生が中心です。代々木小学校を借りて開設しています。週1回の放課後はフリースペース、土曜日はパソコンや英語などのクラブを、月1回さまざまな体験プログラムを実施しています。

## ⑦原宿ファンイン

毎週水曜日、福祉施設（ケアコミュニティ・原宿の丘）にあるレクリエーションホールの居場所では、小中学生がユースパートナーと一緒に過ごします。土曜日は中学校でサポーターと一緒に英語クラブを実施しています。

## ⑧美竹ファンイン

マイケル・ジョーダンとナイキジャパンの社会貢献でつくられた美竹公園内の「ジョーダンコート」と、渋谷区女性センターの一室を借りて居場所を開設しています。週1回、ストリートバスケットの選手たちと一緒に遊びます。

## ⑨広尾ファンイン

毎週水曜日、ひがし健康プラザを使った居場所では、バスケットやバレーボールが人気です。小学生が中心ですが、このごろ中学生の参加が多くなってきました。土曜日は恵比寿社会教育館で「ユースクラブ」が行われ、小中高生がユースパートナーと一緒に学習に取り組めます。

## ⑩恵比寿ファンイン

恵比寿ビジネスタワー18階、ベンチャー企業のオフィスの一室が居場所です。企業の社会貢献として地域に提供されたもので、PC、プリンター、机、イスなどの機材も複数の企業の社会貢献によって整えられ、企業、NPO、大学、地域、4者のコラボレーションによる実行委員会が、「ITと子ども」というキーワードで運営しています。

## ①代官山ファンイン

中学生を主な対象に実施しています。スポーツ施設（代々木スポーツプラザ）を借りて居場所を開設しています。卓球で遊んでいるうちにピンポンクラブも誕生しました。

## ▼最後に、ファンインのネットワークの特徴と、今後の課題についてお伺いします。

渋谷ファンインを構成する11か所の各ファンインは、ある程度の約束事を会則で決めてはいるものの、それぞれが独自性をもちながら、子どもたちへの“共通な想い”でお互いにつながっています。

「子どもたちの成長に地域の大人が少しでもかかわっていきたい」、「できることを無理しない範囲で」、「子どもがゆったりでき、その後元気を取り戻していけるような場所がほしい」、といった地域の共通の想いがあり、子どもたちが歩いて行ける中学校区単位ぐらいで、地域に暮らす大人たちが、公的施設などを借りて居場所を運営するという“手づくり”な感覚が、ファンインのネットワークを広げているといえるのではないのでしょうか。

地域で子どもたちにかかわる人々の想いは活動を通して広がっていきます。しかし、ややもするとファンインという組織やこれまで積み重ねてきた形にこだわってしまい、想いまでも硬直化する危険性があります。それが、これからのファンインの課題だと感じています。

子どもたちは変化に敏感で感性が豊かです。そのエネルギーに追いつきともに進むためにも、活動のなかに若者や、地域の企業で働く人たちの参加も求め、新しい風を吹き込みながら、地域に「教育の力」を創造していきたいと思えます。

せせらぎファンイン▼



▲美竹ファンイン



▲恵比寿ファンイン



本町ファンイン▲

問い合わせ先：渋谷ファンイン事務局・渋谷区立上原社会教育会館内

TEL 03-5465-2040 <http://www.dynax.co.jp/428hy/>